

令和5年度飯山市美術館運営協議会（第2回）

日時 令和6年（2024年）2月16日（金）15：30～

場所 飯山市公民館101会議室

1 開 会

2 あいさつ

- ・廣靖彦美術館運営協議会長
- ・松木英文教育長

3 協議事項

- （1）平成5年度事業について（報告）
- （2）令和6年度事業計画（案）について
- （3）令和7年度以降の企画展等の予定について
- （4）入館料について
- （5）その他

4 そ の 他

- ・委員の任期について

5 閉 会

飯山市美術館運営協議会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、飯山市伝統産業会館条例(昭和57年飯山市条例第22号)第19条に定める飯山市美術館運営協議会(以下「協議会」という。)の委員の定数、任期その他必要な事項を定めるものとする。

(定数)

第2条 協議会の委員の定数は、12人以内とする。

(任命)

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識者から教育委員会が委嘱し、又は任命する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長)

第5条 協議会に会長を置き、委員が互選する。

2 会長が会務を総理する。

3 会長が事故あるときは、あらかじめ会長が指名した委員がその職務を代理する。

(協議会)

第6条 協議会は、美術館の運営に関し教育委員会の諮問に応じるとともに、教育委員会に対し意見を述べることができる。

(会議)

第7条 協議会は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(補則)

第8条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成18年2月20日教委規則第1号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成20年3月24日教委規則第2号)

この規則は、公布の日から施行する。ただし、第1条の改正規定は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成27年3月31日教委規則第4号)

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

令和5年度飯山市美術館運営協議会委員 名簿

飯山市美術館運営協議会委員 名簿（敬称略）

令和6年2月16日現在

	氏 名 等	備考（推薦団体等）
1	高山 顕光	飯山市校長会
2	千坂 経悦	学校教育
3	廣 靖彦	学校教育
4	吉越 隆師	飯山市芸術文化協会
5	篠原 敦子	飯山市芸術文化協会
6	明石 洋一	飯山仏壇事業協同組合
7	阿部 拓也	内山紙協同組合
8	佐藤 環	学識者
9	前島 憲一郎	社会教育委員会

（任期：令和7年4月30日まで）

教育委員会関係者

1	松木 英文	教育長
2	田中 良則	文化振興部長
3	井端 伸介	文化交流課長（兼）美術館長（兼）美術館係長
4	木村 友子	会計年度任用職員
5	服部 節子	会計年度任用職員

	事業名	内容・効果等	期間・会場等	入館者数等
常設展示	常設展示(前期)	飯山市出身あるいはゆかりの芸術家で、これまで企画展を開催した画家の作品を中心に美術館収蔵品60～70点を展示した。 作家名等:長谷川青澄(日本画)・佐藤武造(日本画)・宮澤鉄夫(日本画)・河野文夫(油絵)・相原求一朗(油絵)・木原正徳(油絵)・駒村久彌(油絵)・岩上隆静(水彩)・齋藤一郎(和紙作品)・寺瀬黙山(彫刻)	R5.4.19～R5.7.2	入場者数:825人 ※ギャラリー展含む
	常設展示(後期)		R5.12.2～R6.3.31	入場者数:56人 ※R6.1.31時点
ギャラリー展	北信濃伝統工芸展 ※資料1ページ	市の伝統工芸である飯山仏壇制作に携わる伝統工芸士、森徳壽氏(彫刻)・藤澤一雄氏(蒔絵)・三ツ井照雄氏(彫金)の3人が制作した一輪挿しなどの身近な工芸品の他、内山紙、小沼箒、野沢温泉村のあけび蔓細工、山ノ内町の竹細工など、北信濃を代表する工芸品を展示した。伝統産業会館と併設されている美術館の企画として継続的に開催している。	R5.6.2～R5.7.2 開館日数:31日 会場:1階ロビー 2階ギャラリー	入館者数:599人
企画展	岩上隆静没後10年展 水彩画に込めた故郷への想い ※資料2～4ページ	郷土の画家岩上隆静の没後10年を記念し、同画家を代表する北信濃の風景画をはじめ、認知度の低い静物画や人物画などの水彩画等合わせて100点を展示。展示作品は美術館所蔵作品15点以外は、普段観ることの出来ない個人等から借用した作品85点を展示した。 透明水彩の醍醐味を感じさせてくれる岩上隆静の作品世界を堪能できる機会となったと同時に、飯山の魅力をアピールすることが出来た企画展となった。	R5.7.8～R5.9.10 開館日数:65日 会場:ロビー及び展示室	入館者数:1,570人 (うち有料733人)
		【企画展鑑賞会開催】美術館で市バスを手配し、城南中、木島小、秋津小から12クラス 317人が企画展を鑑賞した。	7/19、21、8/24、25、 8/29、30、31、9/8	
	星野秀樹写真展 木々の集いに誘われて ※資料5～7ページ	福島県出身で、2015年に飯山市岡山地区に移住した写真家、星野秀樹氏の写真展を開催。「『里に暮らし、森に通う』という日々の中で出会う、ブナの木々が織りなす物語」というテーマで、鍋倉山のブナの森に長年通い続けて撮影した代表作と言える写真50点とエッセイ7点を展示した。質の高い写真の鑑賞と飯山を特徴付けている鍋倉山の魅力を再認識する機会となった。 10月21日には星野氏を講師としたギャラリートーク「私的写真論森を撮る楽しさ、難しさ」を開催し県内外から約50名が参加した。	R5.9.16～R5.11.26 開館日数:72日	入館者数:2,653人 (うち有料1,015人)
		【企画展鑑賞会開催】美術館で市バスを手配し、木島小、戸狩小、飯山高校から5クラス 110人が企画展を鑑賞した。	9/26、28、29、11/22	
美術教室等	押し花と和紙を使ったアート作品をつくろう! ※資料8ページ	郷土の伝統工芸である和紙と押し花を使ったアート作品作りを実施。誰にでも出来る簡単な作業でありながら、それぞれの個性が現れた作品が制作され、参加者の満足度も高かった。(公民館夏休み体験教室)	R5.8.2 会場:公民館101	参加者数 小学生 13名
	押し花を使った和紙のブックカバーと葉	(予定)押し花企画第2段として和紙に思い思いの押し花を貼り付け、自分だけのブックカバーと葉を作りましょう!(公民館春休み体験教室)	R6.3.20 会場:公民館101	募集人数:16名 参加者数:
その他	市民ギャラリー活用 ※資料9ページ	市内で活動しているグループや個人の作品展示を支援した。 図書館入口ガラスケース:2グループ、3個人 公民館廊下:4グループ、1個人	随時	
	作品寄付申出受入 ※資料10ページ	1 長谷川青澄作品2点(京都市在住個人から) ①燕子花(28.0×44.0cm) ②桔梗(28.0×44.0cm) 2 長谷川青澄作品2点(東京都在住個人から) ①牡丹(40.0×52.5cm) ②薔薇(40.5×27.0cm) 3 鷲森秀樹作品2点(長野市在住個人から) ①(仮)少年(64.5×44.8cm) ②(仮)少女(32.5×23.5cm)	R5.4.26 寄付採納承認 R5.8.29 寄付採納承認 R5.12.26 寄付採納承認	

令和6年度事業計画（案）

1 常設展示

内容： 飯山市出身あるいはゆかりの美術家及び企画展を開催した美術家の作品を中心に常設展示を行う。美術館収蔵品及び借用作品を合わせて60～70点を展示する。

期間： ①令和6年4月2日(火)～令和6年4月11日(木)

②令和6年12月7日(土)～令和7年3月30日(日) ※約4ヶ月

2 企画展開催事業

(1)『松蔭寺と細川家の秘宝 ブッダと白隠禅師展』 ※資料14ページ

期間： 令和6年4月20日(土)～令和6年6月9日(日)

内容： 臨済宗中興の祖と称される白隠禅師（1686－1769）は、正受老人（道鏡慧端、1642－1721）の厳しい指導により正受庵で大悟した。

今回、日印文化交流ネットワークの協力を得て白隠禅師の複製書画46点とブッダの生涯にまつわる仏跡地や仏像の写真約10点を紹介する。複製書画は白隠宗大本山松蔭寺と細川家が所蔵する世界随一のコレクションから厳選し、高精細スキャニング技術を用いて精密に複製されたものである。

複製書画とともに書画の説明を展示し展覧する意義のある企画展としたい。

関連事業： 開会式後に堀内伸二先生（日印文化交流ネットワーク事務局長）によるギャラリートークを開催する。

(2)『(仮称)猪瀬清四郎彫刻展』 ※資料15ページ

期間： 令和6年6月15日(土)～令和6年9月23日(月)

内容： 昨年1月に逝去した飯山市出身の彫刻家、猪瀬清四郎（1937－2023、飯山北高卒、武蔵野美術大学卒）の回顧展を開催する。

猪瀬は国展彫刻部への作品出品を創作活動の軸とし、そこで人体彫刻を発表し続けた。そしてそのほとんどは一見愚直なまでに写実性の高い女性像であるが、ともすれば目新しさを追いがちな現代において、反って新鮮さを感じさせるだけでなく、時代に左右されない造形としての完成度の高さを持つに至っている。

1986年以来となる郷里における本回顧展では、国展出品作品の初期から晩年までを網羅展示することで猪瀬が生涯に亘って追究した人体彫刻の世界を辿るほか、人体彫刻以外の作品やデッサンも紹介し、彫刻家猪瀬清四郎の

仕事を俯瞰したい。

関連事業： 開会式後に彫刻家、猪瀬昌延氏によるギャラリートークを開催する。

(3)『長野県立美術館移動展』 ※長野県立美術館事業

期間： 令和6年9月28日（土）～令和6年10月13日（日）

内容： 移動展のテーマや展示作品は長野県立美術館から提案される予定。

会場： 美術館展示室

※美術館ロビーは猪瀬作品及び長谷川作品の一時保管場所とする。

関連事業： 長野県立美術館の担当者と相談のうえ決定する。

備考： 期間中、入館料は無料とする。

(4)『(仮称) 長谷川青澄没後 20 年展』 ※資料 16 ページ

期間： 令和6年10月19日（土）～令和6年12月1日（日）

内容： 郷土を代表する画家、長谷川青澄（1916－2004）の没後 20 年を記念した企画展を開催する。

主な出品作品は、当館が所蔵する院展出品作品や小品の中から特に長谷川青澄の画風の特徴が際立った代表作を展示する。また、市内の個人や施設が所蔵している作品を出来る限り多く借用展示したい。特に、個人所蔵作品で当館で紹介したことがない質の高い作品をこの機会に展示できるよう所蔵者と調整を図りたいと考えている。

会場： 美術館展示室 ※美術館ロビーを使用するか否かは未定

関連事業： 開会式後、美術館長によるギャラリートークを開催する。

3 ギャラリー展等

方針： 市出身あるいはゆかりがあるかどうかに関せず、市外の作家も積極的に紹介し、施設の有効活用・活性化を図る。ただし、令和6年度は4月半ばから12月中旬まで、美術館ロビーはギャラリー展の会場として使用できないことを考慮する必要がある。

(1)『北信濃伝統工芸展』※調整中

期間： 令和6年8月18日（日）～9月16日（月）の期間内で調整予定。

内容： 市の伝統工芸である飯山仏壇の製作に携わる伝統工芸士3人（彫刻：森徳壽・蒔絵：藤澤一雄・彫金：三ツ井照雄）の作品の他、内山紙・小沼箒・野沢あけび蔓細工・山ノ内竹細工など北信濃を代表する工芸品をあわせて展示する。期間中に体験教室等（有料、予約制）の開催を検討中。

会場： 2階ギャラリー

(2) その他

登録社会教育団体等から利用希望があれば随時検討する。

※美術館ロビーが使用可能となるのは、12月中旬から令和7年3月末まで

4 ワークショップ・美術教室等

方針： 特徴ある美術館づくりを目指して、絵画制作等のワークショップを継続して取り組む。また、美術家等に協力を仰ぎ、美術を身近に感じ楽しむためのギャラリートークやワークショップを実施する。

○夏休み・春休み体験教室の美術・図工の講座を担当実施

市公民館主催の小中学生を対象とした夏休み・春休み体験教室において、美術・図工関連の講座を担当予定。

5 市内の小中学生及び高校生の企画展鑑賞機会を増やす取り組み

5年度に引き続き、市内各学校の授業や部活動において企画展等の見学がスムーズに行えるよう学校関係者と連携しながら美術館が市バスを手配し子どもたちの送迎を行う。

6 その他

(1) 広報活動について

- ・ 広報飯山、i ネット、防災無線放送を活用した美術館情報の発信等
- ・ SNS(インスタグラム)を活用した情報発信

(2) 地域おこし協力隊の招聘について

美術館業務全般に従事しながら和紙を使った造形教室の企画運営や和紙作品の展示内容の工夫や改善を行う人材の募集を要請したが現在まで応募者はいない。

(3) 市民ギャラリーの有効活用について

公民館の廊下壁面などを市民ギャラリーと位置付け、市民から作品展示の希望を美術館で受け付けており、今後も市報やi ネットなどで利用を呼びかける。

(市民ギャラリーとして使用している場所)

- ・ 公民館1階廊下の壁面
- ・ 公民館階段の壁面
- ・ 公民館2階ロビーの壁面
- ・ 図書館の公民館側入口のガラスケース

(4) 五郷研修館の活用・県外在住美術家との連携

美術館活動の活性化を目的として、県外在住の美術家が五郷研修館をアトリエとして利用してきた。企画展「五郷分校の作家たち」を開催（H22）したこともあったが、特にコロナ禍以降、活動は行われていない。また、校舎の老朽化が激しいことから、解体を視野にいれた計画を立てていく時期となっている。

具体的には、城北小学校新校舎の使用が開始される令和7年度に五郷研修館に保管している美術館所蔵作品を空き校舎等へ順次移動するほか、県外在住美術家にアトリエの撤収等を依頼するなどの準備を進めていくこととしたい。

(5) 臨時休館する日

4/12(金)	常設展撤収 ※4/13・14 は市民芸術祭
4/16(火)～4/19(金)	ブッダと白隠禅師展展示
6/11(火)～6/14(金)	ブッダと白隠禅師展撤収、猪瀬清四朗彫刻展展示
9/24(火)～9/27(金)	猪瀬清四朗彫刻展撤収、県美移動展展示
10/15(火)～10/18(金)	県美移動展撤収、長谷川青澄没後 20 年展展示
12/3(火)～12/6(金)	長谷川青澄没後 20 年展撤収、常設展展示

令和7年度以降の企画展等の予定について

令和7年度 (2025年)	【候補】 現代美術家、冬耳 (ふゆじ) 氏の作品展 ※資料17～19 ページ	・市内瑞穂地区在住の美術家、冬耳氏(R5春に大阪から移住、本名：中川健)の個展を開催したい。 ・冬耳氏の作品は、不定形の支持体に抽象的あるいは具象的なフォルムが彩度の高い色彩により描きこまれた絵画作品である。 ・飯山市を拠点に活動している現代美術家の質の高い作品を老若男女問わず鑑賞できる機会としたい。
	【決定】 「(仮称) 思い出の 学校」展	・飯山市立城北小学校が開校した同年に統合した4小学校が所蔵していた美術工芸品や写真等を展示する。また、「思い出の学校」というテーマにふさわしい展示を行い、展示室の中で鑑賞者がそれぞれの小学校時代を思い出すような企画展としたい。 ・飯山市ふるさと館と共同開催する。 ・新校舎での学びが始まる9月ごろから十分な期間を確保して開催する予定。
令和8年度 (2026年)	【検討中】 現代美術家、佐々木 晴香氏の作品展 ※資料20・21 ページ	・市内有尾地区出身でベルリンを拠点に12年以上活動している美術家、佐々木晴香氏の個展を検討中。 ・佐々木氏は、主にアクリル絵具や墨を使った抽象性の高い絵画作品を制作している。また、ヨーロッパ各地でライブペインティングやパフォーマンスも行っている。
令和9年度 (2027年)	【検討中】	・郷土出身あるいはゆかりのある美術家等の企画展開催を基本とするが、飯山市で紹介することがふさわしい作品による企画展を検討する。